

# 8 コンデンサ・リアクトルご使用上の注意

下記に代表的なものを記載しますが、詳細は各機器の取扱説明書をよく読んでその指示に従って下さい。

## 運搬・据付

- ・コンデンサの運搬時には碍子を絶対に持たないで下さい。
- ・コンデンサの設置場所は風通しの良い所、腐食性ガスや振動のない所を選んで下さい。
- ・周囲温度は各機器に規定されている範囲内で、周囲の併設機器から熱の影響を受けにくい場所をお選び下さい。  
なお、変圧器や直列リアクトルのような発熱機器と併設される場合は、その発熱の影響を避けるため200mm以上の間隔をとって下さい。また、発熱機器の真上にコンデンサを設置しないで下さい。
- ・コンデンサを2台以上並べてご使用になる場合は、隣り合うコンデンサとの離隔距離は規定値以上として下さい。

## 結 線

- ・コンデンサの接続用電線は端子部に力が加わらないよう可とうな電線を使用するものとし、ブスバーによる直接接続は行わないようにして下さい。
- ・締付トルクはコンデンサ本体に表示しておりますので、明記されているトルクで締付をお願い致します。  
必要以上の締付は油漏れの原因になることがあります。
- ・接地端子による接地工事を必ず実施して下さい。

## 運 転

- ・充電部に接近しないで下さい。また、触れないで下さい。
- ・適切な保護装置を設けて下さい。ただし、サージ吸収用コンデンサ・接地用コンデンサを除く。

## 更新推奨時期

コンデンサ及び直列リアクトル、放電コイルなどの付属機器は、(社)日本電気工業会「汎用高圧機器(及び低圧機器)の更新推奨時期に関する調査」という報告書において更新推奨時期を以下のように定めています。

高圧進相コンデンサ及び付属機器：使用開始後15年  
低圧進相コンデンサ：使用開始後10年  
(これらの値は保証値ではありません)

予防保全の見地からも、上記期間を目途に更新を推奨致します。

注意！特に昭和50年以前の低圧進相コンデンサは保安装置が内蔵されていないため、万一の内部故障時には二次災害(発煙・発火)が発生するおそれがあります。防災の上でも早急にお取替えをお願い致します。

## 横倒し禁止

- ・コンデンサやリアクトルは、一部の商品を除き、運搬・据付時の横倒しを禁止しておりますのでご注意下さい。
- ・横倒し禁止除外対象品  
低圧進相コンデンサ設備 N2形(36頁、37頁)

## 機器の離隔距離

コンデンサ同士、及びコンデンサ～リアクトル間の離隔距離は原則以下の値以上として下さい。

コンデンサ～コンデンサ間

- |               |             |      |         |
|---------------|-------------|------|---------|
| ①油入           | 100kvar未満   | ………… | 50mm以上  |
|               | 150～300kvar | ……   | 80mm以上  |
|               | 400～500kvar | ……   | 100mm以上 |
| ②ガス式          | 50kvar以下    | ………… | 50mm以上  |
|               | 75～100kvar  | ………… | 80mm以上  |
|               | 150kvar以上   | ………… | 100mm以上 |
| ③コンデンサ～リアクトル間 | …………        | ………… | 200mm以上 |
| ④サージ吸収用・接地用   | …………        | ………… | 50mm以上  |

尚、絶縁・放熱・メンテナンスの判断より上記寸法を小さくできる場合はこの限りではありません。

## 使用絶縁油

- ①高圧コンデンサ JIS C 2320:2010 5種2号、第四類第三石油類
- ②高圧リアクトル JIS C 2320:2010 1種2号、第四類第三石油類

## 高調波引込現象

電圧歪が高い(系統の状況により異なる)場合は、コンデンサ(リアクトル)を投入する際に高調波の引込現象が生じることがまれにありますのでご注意下さい。

## 周辺機器(開閉器)のコンデンサへの影響について

製造メーカー更新推奨時期を超過して使用されたVMCなどの開閉機器については、その接点の消耗などにより開閉サージが増大する場合があります。過電圧でコンデンサ設備が劣化・故障する可能性がありますのでご注意下さい。